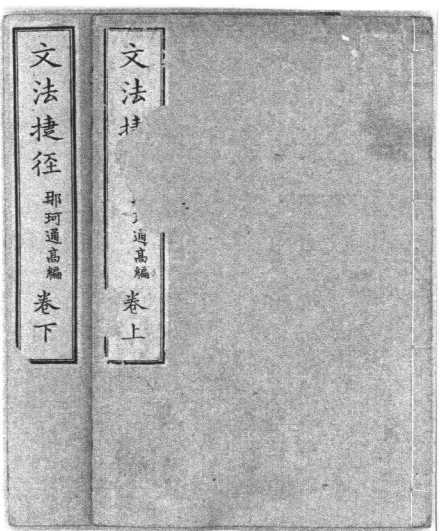


那珂通高 なかがたか 儒者。文政十年十一月二十四日出羽國大館生れ、明
 治十一年五月一日歿（一八七〇年）。舊姓江幡、幼名健彌、通稱堅彌、
 堅輔、江幡五郎。變名國分五郎、安積五郎。號吾樓、有待居主人、梧
 樓、蘇隱等。少時より英才を以て知られた。脱藩（盛岡）して江戸に
 赴き、儒學を名を成した。嘉永二年藩の變嗣事件で兄が獄死、復讐に
 奔走するも、仇は死んでおこ成らなかつた。その行を共におした吉田松
 陰、宮部鼎藏とは親交、また諸國の志士と交はる。萬延元年藩費明
 義堂教授となり、「學規」（江幡通高名、慶應三年正月序、無刊記）
 を著した。戊辰役では奥羽同盟に關し罪を問はれ、江戸で幽閉せら
 れると明治四年赦免。のち私塾を開き、六年大藏省出仕、次ぐ文部省
 御用掛となりて教科書編纂に従事、師範學校編輯（田中義廉編輯・那
 珂通高校正）、「小學讀本」（一・明治十二年十月文部省、靜岡・古澤
 良作翻刻。一・八年二月足柄縣・小西又三郎板）、漢加斯底爾譯・那
 珂通高訂「脩身口授」（内題「小學脩身口授」明治八年七月文部省、
 岐阜・三浦源助製本處。異版・「續脩身口授」内題「小學脩身口授」
 十年五月文部省、三重・桂雪堂藏版）などがある。東洋史學者那珂通
 世は養嗣子。

他に「文法捷徑」全二冊（明治十六
 年七月那珂通世出版、石川書屋）、
 「續世はづかひながら」（江幡梧樓
漫筆）、「明治二十五年一月二十百十文字
 名、明治二十五年一月二十百十文字
 信介編刊、金港堂書籍會社・博文館



・博文堂）、「旅の苞」（内題「饑饉旅の苞」那珂通世・佐藤平次郎

校、明治二十六年五月十日巖手・佐藤平次郎編刊（等）。